

件名：第2回 安倍川総合土砂管理計画フォローアップ委員会・作業部会

日時：令和2年1月28日（火） 15:00～17:00

場所：静岡県産業経済会館 3F 大会議室

## 議事要旨

### フォローアップ委員会・作業部会における委員からの助言

#### (1) 土砂管理対策とモニタリング調査結果について

- 事務局から示された今後の方針どおり、中・下流河川領域での土砂管理対策として、安倍川総合土砂管理計画策定後の5年間の土砂の堆積状況を鑑み、緊急的に約40万 $m^3$ /年に掘削土砂量を増加させる方針について了承された。
- 事務局から示された今後の方針どおり、モニタリング計画は概ね計画通りに実施されており、今後も引き続き実施するほか、新技術により効率化等が図られる場合は、活用を検討すること。また、「新たな項目」を追加しR2年度より実施することについて了承された。
- 頂いた主な助言
  - ・40万 $m^3$ /年の除石が必要となる原因となったH25～30の期間の土砂生産・流出について、河川流量の観点からだけでなく、土砂移動現象の観点からもその理由の検討が必要である。

#### (2) 土砂移動シミュレーション精度向上について

- 事務局から示された今後の方針どおり、長期（100年間）の平均的な土砂動態を想定したシミュレーションから、近年頻発している土砂・洪水氾濫を想定した短期（一連の降雨）の土砂動態の再現を主眼にモデルのさらなる精度向上を進めること。また、その結果を基に、短期の土砂移動に対する新たな目標及び土砂管理対策を計画に反映させるための計画変更に向けた検討をすすめる方針について了承された。
- 頂いた主な助言
  - ・シミュレーションは、洪水前後の土砂量の変化だけでなく、土砂の移動状況を把握するため、河床の変動状況や洪水時の水面形を確認しながら精度向上を図る必要がある。
  - ・当初計画で想定していたものと実際の状況に違いがあるのであれば、当初の計画に関する課題や問題点等を整理し、当初の計画を見直していくことも重要である。
  - ・計画変更の議論にあたってはデータの信頼性、シミュレーションの問題などを含めて、土砂と洪水をペアで考え、焦らずにしっかりと検討を進めること。

(3) 土砂管理対策の施設配置計画について

- 事務局から示された今後の方針どおり、今後は、本施工へ移行し、引き続きモニタリングを実施し整備の効果・影響を確認する方針について了承された。
- 頂いた主な助言
  - ・現在、試験施工中の巨石付盛土砂州は、近年の洪水に対し、河岸防護の効果を発揮していると考えられる。大規模な洪水が発生した場合も想定し、シミュレーション等により効果と挙動を確認していくことが重要である。

(4) モニタリング結果の現状把握手法について

- 事務局から示された「新たな基準」に対し、データの信頼性、モデルの妥当性をしっかり時間をかけて、引き続き作業部会で検討を進める必要があるとの基本方針が示された。
- 頂いた主な助言
  - ・今後は LP 測量等の新たなモニタリングを活用しながら、引き続き、作業部会で検討を進めて欲しい。また、災害防止の観点からの評価も必要である。

(5) 海岸領域における取組の報告

- 海岸管理者である静岡県より対策状況について報告がなされた。
- 頂いた主な助言
  - ・河川領域の出水と海岸領域の土砂の移動にはタイムラグがあるので、時間の概念も考慮して対策を考えていくことが重要である。

(5) 全体を通して

- 河川領域と砂防領域は、モニタリングデータの取得方法や解析手法が近づいてきており、今後は、海岸領域も含めて、安倍川流砂系一体となって検討し、これまでの考え方も見直ししながら、新しい技術を持ち寄って考えていくことが重要である。

以上